

参考-1 農薬の使用薬量および対照薬剤

1. 薬量

農薬は、供試品種の栽植密度に関係なく、試験実施計画書に基づいた量を処理する。
ただし、本畑期における茎葉散布剤（殺菌剤、殺虫剤）の使用量については、各農薬の登録予定量を上限とし、タバコの生育状況にあわせ、下表を参考に量を調節する。

表 本畑期における茎葉散布剤の耕作期別10a当たり使用量の目安

植付期～大土寄期	大土寄期～発蕾期	発蕾期～心止期
25～100 $\frac{\text{リットル}}{\text{ヘクタール}}$	100～150 $\frac{\text{リットル}}{\text{ヘクタール}}$	150～180 $\frac{\text{リットル}}{\text{ヘクタール}}$

2. 対照薬剤

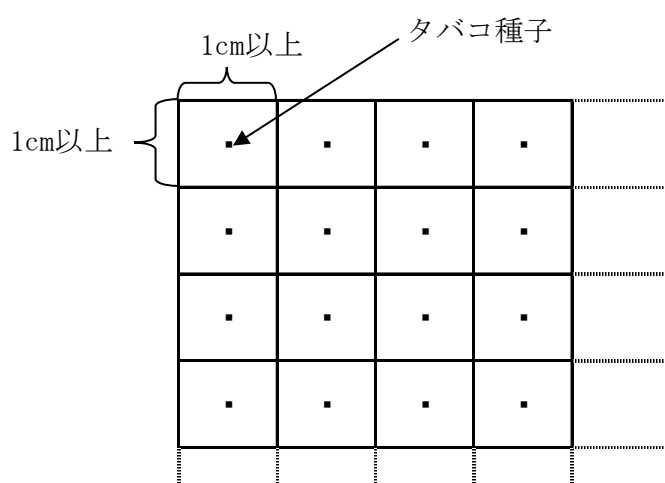
既にタバコでの登録があり、原則として、供試薬剤と類似の特性を有し、かつ同様の処理法の剤を選定する。

参考－２ 苗床資材の試験法

１．発芽試験法

- ①試験資材を混入した床土上に，１cm角以上の格子状のネット等を配置する。
- ②その１枠内に濡らした爪楊枝等を使用して１粒ずつタバコ種子を播種する。
- ③播種後は覆土を行わず，種が動かないよう注意しながら十分に灌水する。
- ④供試苗箱は慣行親床に配置し，慣行管理を行う（種子の移動に注意する）。
- ⑤播種10日後と14日後に目視により発芽率を調査する。

※発芽は，種子が割れて幼根が伸び，カギ型となった状態を指す。



参考－３ 生育調査方法

※有意差検定（t 検定）を行うこと。（参考－４を参照）

１）移植苗調査

- (1) 外観葉数：子葉を含め，米粒大の葉まで数える。
- (2) しぼり丈：葉を垂直に立て，最も高くなった地点と，肥土表面との距離を計測する（mm）。
- (3) 最大葉（各株で，最も長い葉のこと）
 - ①葉長：葉元から葉先までの長さを計測する（mm）。
 - ②葉幅：最も広い部分を計測する（mm）。
 - ③位置：子葉から数えて何枚目に位置するか。
 - ④葉色：カラースケールで計測する。できるだけ少数第１位まで推定する（0.5単位でも可）。

２）大土寄せ相当時（本畑）

- (1) 草 丈：地際から頂上部（最も高い位置）までの高さを計測する（cm）。
- (2) 地上葉数：葉の基部が畦面から上に出ている葉の数を数える。
- (3) 最大葉：位置は地上葉数の最下部の葉から数える（移植苗調査参照，長さの単位はcm）。
※処理効果を正確に判断し，適正な評価をするため，生育調査は各区とも２０個体以上調査する。

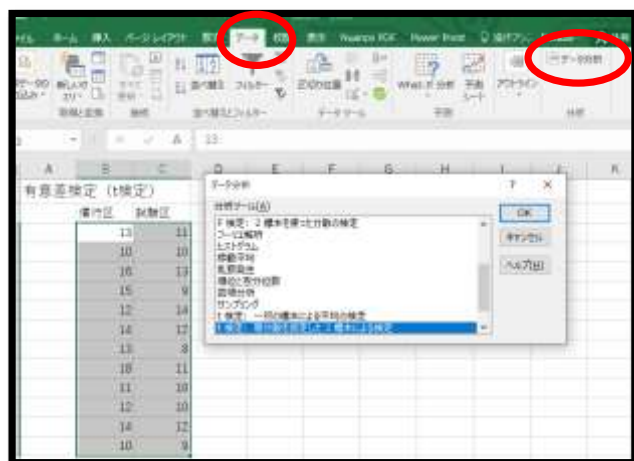
３）開花期（本畑）

- (1) 草 丈：地際から頂花部（おいらん花の付け根）までの長さを計測する（cm）。
- (2) 地上葉数：前項参照。頂上部は第１花枝の出ている葉まで数える。
- (3) 収穫葉数：収穫対象葉の意味で，整理対象葉（下葉）と心止めの切除葉を除いた葉数を数える。
- (4) 最大葉：位置は地上葉数の最下部の葉から数える（大土寄せ相当時参照）。
- (5) 樹型，樹勢，斉否：形態等を目視で確認する（表記方法は記入要領参照）。

４）心止後の葉の展開と成熟状況

- (1) 調査時期：黄色種は心止時と心止４週間後，在来・バーレー種は心止時と心止３週間後に調査する。
- (2) 調査着位：黄色種は心止め位置から５枚目，在来・バーレー種は７枚目の葉を調査する。
- (3) 調査内容：原則として，２回とも同一株の指定着位について，葉長，葉幅，葉色を前項の要領に従って調査する。

参考－４ 『Microsoft Excel』 による有意差検定の分析手順



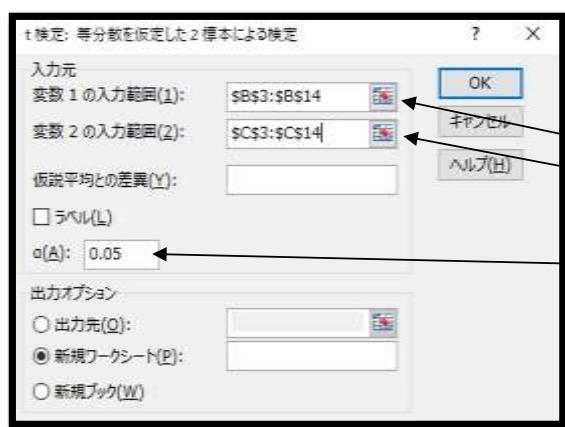
1. メニューバー『データ』を選択

・「データ分析」を選択



2. 『データ分析』メニュー

・「t検定：等分散を仮定した2標本による検定」を選択



3. 『t検定』メニュー

— 入力元 —
 ・変数1（慣行区）の範囲をドラッグ
 ・変数2（試験区）の範囲をドラッグ
 ・ α (A) : 0.05 を入力
 （5%水準）

出力結果

t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定		
	変数 1	変数 2
平均	13.166667	10.75
分散	5.7878788	3.1136364
観測数	12	12
プールされた分散	4.4507576	
仮説平均との差異	0	
自由度	22	
t	2.805921	
P(T<=t) 片側	0.0051481	
t 境界値 片側	1.7171444	
P(T<=t) 両側	0.010296	
t 境界値 両側	2.0738731	

4. 出力結果

・“t”と“t境界値両側”の比較を絶対値で行う。
 $|t| > |t\text{境界値両側}|$ となった場合

α (A) : 0.05 (5%) の水準で優位さが認められる

【表記例】

区別	平均
慣行区	13.2
試験区	10.8